

令和6年度第2回自治体等FM連絡会議多摩地域会の開催報告

多摩地域会代表幹事 三鷹市

都市整備部公共施設課 石川 隆司

開催日時 令和7年2月3日（月） 午後2時から午後4時まで

会場 武蔵野プレイス 4階 フォーラム （東京都武蔵野市境南町2丁目3番18号）

参加者数 46人

内容報告

1 講演 第1部「ZEBの市場動向」

講師 パナソニック株式会社 宮本氏

第2部「BPI値に向けた断熱改修窓の提案」

講師 AGC株式会社 備前氏

第3部「EVの方向性とEVに求められるサービス」

講師 パナソニック株式会社 福原氏

今回の多摩地域会では、各自治体で取組み・検討を進めている省エネに関する取組のきっかけになるべくZEBについて、パナソニック株式会社様とAGC株式会社様のご協力をいただき、3部構成により講演をいただきました。

講演はパナソニック様がZEBに関する取組について三鷹市に対して研修会の話しをいただいたことがきっかけだったこともあり、三鷹市関係者（環境、教育、営繕）と合わせてFM連絡会の会員と合同により行われました。

第1部では「ZEBの市場動向」として、パナソニック株式会社宮本様からZEBの概要から最近の動向、活用の可能な交付金や補助金について、具体の事例などご講演をいただきました。

FM連絡会会員のほとんどは企画系など公共施設のマネジメント部門につき、そもそもZEBとは何かというところから入っていただき、定義付けや補助金に関する考え方、省エネ性能向上(BEI)の計算上の考え方や評価の仕方など図表を使って分かりやすく説明いただきました。

ZEBの動向では2050年までにカーボンニュートラルを達成するための温室ガス削減の中長期の目標やそのために必要となる太陽光の最大導入、新築ZEB化、電動車/LEDの導入徹底、再エネ電力調達の率先実行などについても話をいただきました。

参加した各自治体からも「ZEBに関する知識を深めることができた」「大変参考となった」「コスト抑制に関わる部分で持続可能な運営を行うためには重要だと認識できた」などアンケートにより回答があり、当初の「きっかけ作り」としては良かったと感じています。

第2部では「BPI値に向けた断熱改修窓の提案」についてAGC株式会社備前様より「BPI」についてや断熱窓改修について、導入事例と合わせてご講演いただきました。

BPIという年間熱負荷の基準について、算出の仕方や外皮性能要件でもある窓性能値との関係性、外皮の高断熱化による補助事業の要件など教えていただきました。

断熱窓改修ではガラスの交換や内窓改修、ガラス後付けによる複層ガラス化など手法について特徴と共にそれぞれ説明がありました。

参加した各自治体からは「BPI値の窓性能との関係性や改修方法など断熱窓について多くの学

びを得ることができた」「内窓を新たに設ける対応は新たな視点と感じ参考となった」など、外皮性能の一つである断熱窓改修の講演は普段見聞きすることの少ない分野で有意義なことが伺えました。

第3部では「EVの方向性とEVに求められるサービス」として、EVエネルギー市場について、EV導入に求められるサービスについてなどのご講演をいただきました。

EV市場については、カーボンニュートラル実現に向けてEVが普及してきている現状や更なる普及の加速のため、EV用の充電スタンドの数を2030年までに30万口にする（従来は15万口：現状2万口）との政府指針が出されていることなどについて話がありました。

また、EVの活用としてBCP対策としてどうEVを活用するか、再エネの普及とEVの普及を同時に行う必要がある事などの話しを受けました。

参加した自治体からは、「移動手段だけでなく災害対策という観点からも導入を進めていくことは重要」「充電スタンドの配備では土地の利活用ができると感じた」「インフラ整備など、行政としてどのような取り組みが必要になるのか、今後も検討が必要と思った」などEVの可能性や検討事項など学ぶことができました。

【講演状況】



2 その他

今回、令和6年10月から幹事市を引き継いだ4市でFM連絡会開催に向けて何度か会議を開き内容について議論を行いました。その中で、各市のディスカッションとしてZEB関係やLEDの取組、マネジメント体制など話が上がりました。先進の自治体でもまだ事例が少ななかで、ディ

スカッションをするには、そこに至るプロセスがないと難しい話しも意見としてありました。

検討しているタイミングで、たまたま代表幹事市である三鷹市へパナソニック株式会社様が来庁し、ZEBに関する研修会のお話しをいただきました。そこで、パナソニック様にご相談するとともに、連絡会各幹事市にも共有し今後の取組のきっかけづくりとして、商品説明ではないZEBの概要や併せて検討が必要な外皮性能についてAGC株式会社様にもお声掛けしていただき、3部の構成で実施する運びとなりました。

年末に方向性を確定し、2月には開催しないとならないなど時間のない中でしたが、参加した自治体の担当者の意見をみますと、大方の方が「大変参考となった」「新たな視点により参考となった」等の意見があり、当初の目論見であった「きっかけづくり」の最初としては有意義なものとなったと思っています。

一方で、メーカー主体の講習では営業が前面に出ないように事前に打ち合わせして臨んでいても、資料の作りや、商品事例ではそのように感じてしまう自治体もおられていたため、同種の講習会を行う際の検討課題と思われました。

今後も、社会情勢や市民ニーズの多様化等に対応しながらFMを進める各自治体にとって、顔の見える関係での連携強化や活発な情報共有の一助となるよう、様々な取り組みを模索し、適宜ディスカッションやグループ討議などを交えて多摩地域会を開催していきたいと考えております。引き続き、構成自治体の皆様をはじめとする関係者のご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願いたします。